

女子栄養大学の創立者を記念して開設された香川昇三・綾記念展示室や同窓会館（いずれも埼玉県坂戸市）には、和服地の小片で作られたキルトの大きな壁掛けが飾られています。母・綾の和服をほどこき、卒業生延べ360名が一針一針縫ったものを縫い合わせて大きな一枚の作品にした「香川綾メモリアル・キルト」です。通算2年で6枚ができました。小片1セットごとに手がけた人の名前が刺繍、あるいは明記されていて懐かしい名前を見つけることもできます。その折々に母が身にまもっていた

姿が懐かしく思い出されますし、多くの卒業生の綾を慕う気持ちを感じられて胸が熱くなります。中心になって指導・仕上げたのも卒業生のキルト作家です。細かてたいへん根気のいる地道な作業の連続、一大事業でした。彼女は残念ながら亡くなられたのですが、先日ご主人が訪ねてくださり作品を愛しむようにごらんになっていました。それぞれに物語がありました。これらの経緯を次世代に伝えることで、綾と出会った、作品にかかわった多くの人々の想いが継承されていくことを念じています。

思い出の和服地が  
キルトになり  
心の拠り所となります